

## 「武漢のコロナ実態暴露」した中国の市民記者、4年ぶりに釈放

5/22 中央日報



<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240522/k10014456951000.html>

2020年初め、中国武漢で新型コロナウイルス感染症（新型肺炎）の初期拡散状況を動画で知らせた後に拘禁された中国市民記者の張展氏（41）が13日、上海刑務所から釈放された。

21日（現地時間）、米ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）によると、張氏はコロナが初めて発生した中国武漢の様子を撮影した動画120本以上を公開した容疑で有罪判決を受けて収監された。

張氏は弁護士兼市民記者で、2020年2月1日重慶行きの列車に乗り込んだ後、途中の武漢の漢口駅で下車して封鎖9日目を迎えた現場の状況を外部に伝え始めた。張氏は中国当局の封鎖にもかかわらず現場で活動した数少ない市民記者の1人だ。

当時ある動画で張氏は「すべてのものが遮られて都市が麻痺したという以外に言葉が出ない」とし「彼らは伝染病予防という美名の下に私たちを閉じ込めて自由を制限している」と暴露した。

別の動画では、患者が横になっているベッドで病院の廊下がいっぱいになっている様子を公開したりもした。

2020年5月に逮捕された後、「公衆騒乱」容疑で同年12月に懲役4年刑を宣告された張氏は上海女性刑務所に収監された。

張氏は収監1年余りの後、獄中の断食闘争によって大きく衰弱して歩くこともできず、頭部を支えることもできないほど体を壊したと家族と弁護士が明らかにした。収監初年度の冬に75キロだった体重が41キロに減り、その年を越すことができないのではないかとという報道も出てきた。

人権運動家によると、釈放された張氏は徹底した監視の下でWeChat（微信）メッセージングを通じて友人と連絡を取っている。現在、張氏の所在地は確認されていない。

西側政府と人権団体は13日に釈放予定の張氏の行方が公開されず心配してきた。米 국무省や英国および欧州連合（EU）はともに張氏の安全と安寧を懸念していると明らかにした。

21日に公開されたある動画で、13日午前5時に警察が張氏を上海に住む兄に引き渡す様子が出てくる。パジャマ姿の張氏は疲れている様子だった。張氏は「助けてくださったすべての方々に感謝する。これ以上話す言葉はない」と伝えた。

活動家は断食で痩せていた張氏が再び元の姿に戻りつつあるように見えると明らかにした。ロンドンの人権活動家のジェイン・ワン氏は中国当局が当初張氏の釈放がメディアの注目を浴びないようにする計画だったが、国際社会の圧力を受けて、張氏に電話機を与えてWeChat（微信）アカウントを使うように指示したようだと伝えた。

人権運動家は張氏が別の反体制要人と同じように家宅軟禁など徹底した監視と移動制限を受けていることを懸念した。

張氏の元弁護士は「釈放後、家に送られるか1～3月追加で拘禁される場合がある」としながら「当面は外部世界との接触や移動が禁じられるだろう」と話した。